



# 6月の園だより

令和7年5月30日  
杉並区立西荻北子供園  
園長 須田 なぎさ

## 「やりたい」から試行錯誤を重ね、探究へ・・・

園長 須田 なぎさ

木々の緑が日増しに濃くなって、6月を待たずにアジサイの花が咲き始めました。戸外で遊ぶのに心地よい季節となり、園庭では、鬼ごっこをして走り回ったり、砂場では、水を使って楽しむようになったりしています。

子供園の先生たちは、日々の遊びや生活の様子を振り返り、子どもたちの楽しんでいることや経験していることを読み取り、次の日にもっと楽しく、必要な経験を積み重ねられるように環境を整えています。「幼児の“やりたい”を支える環境の工夫」をテーマに、毎月園内研究を行い、よりよい環境を考え、保育の質の向上を目指しています。

さらに今年度より西荻北子供園は、「とうきょうすぐわくプログラム」に取り組んでいきます。「とうきょうすぐわくプログラム」とは、各園で設定したテーマの中で、探究活動を通じて、子どもたちの「伸びる・育つ（すぐすぐ）」と「好奇心・探究心（わくわく）」を応援するプログラムです。このプログラムは、乳幼児の豊かな心の育ちをサポートするため、主体的・協働的な探究活動を通じて幼児教育・保育の充実を図ることを目的としています。本園では、『水』をテーマに取り組んでいきます。『水』は、子どもたちにとって身近で、気温が高くなるこれからの季節は特に、触れる機会が多くなります。

3歳児うさぎ組は、砂場にできた穴に、自分たちでバケツに水を汲んで流し入れ、たまつた水の中に裸足でジャブジャブ入り、水の中で足を動かすと、跳ね返ってくる感覚、心も開放されて繰り返し楽しんでいました。全身で水を感じました。



4歳児くま組は、園庭にある花や木の実、草などを水に混ぜると、透明だった水に色がつくことに気付いています。「どんな色になるかな?」「この草は色ができるかな?」と、真剣な表情で色を出していました。水に色が付くと「ジュースだ!」とジュース屋さんごっこが始まりました。



5歳児ぞう組は、砂場にある雨どいやビールケースなどを組み合わせて、斜面を作り「ウォータースライダー」と称して、水の流れを楽しんでいます。雨どいを組み合わせる角度や向きを変えると、水の流れ方が変わります。



さらに、水の勢いの違いで、水が雨どいから流れ出る水に変化があることに気付いていました。「できるかな?」「今度はこうしてみよう!」と、崩れてもまた組み直して、繰り返し変化を楽しんでいます。

IQや成績など目に見える知的能力は認知能力と呼ばれています。一方で、「意欲・好奇心」「粘り強さ」や「自尊心」などの自己にかかわる心の力と、「共感」や「思いやり」「協同性」など社会性にかかわる心の力を非認知能力といいます。この非認知能力は、園での遊びや生活を通して育ち、これからを生きていく子どもたちに必要な力とされています。

「やりたい」という気持ちで始めた遊びの中で、子どもたちは日々、「これって何だろう?」という疑問をもち、「探究」を積み重ねて成長していきます。「すぐわくプログラム」は、このような「疑問」をもつ姿を捉え、子どもたちの考えに耳を傾け、より好奇心・探究心を高めていけるよう、環境や援助を工夫していきます。『水』をテーマにしたこのプログラムを活用することで、「やりたい」から失敗や試行錯誤をし、さら探究心を育み、「非認知能力」を育て、子どもたちの成長を促していきます。西荻北子供園の『水』との出会いはまだ始まったばかりです。試行錯誤しさらに深めて探究できるように、環境を工夫していきます。

